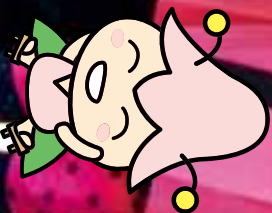


にしあいつ

「こゆりちゃん音頭」を披露しました

- P 2～3 イベントをリニコールし多彩に
—西会津ふるさとまつり開催—
—自治功労者表彰式から—
- P 4～5 功績をたたえ
—正しい知識で
安心・安全な暮らしを！
- P 6～7
- P 8 第24回ふくしま駅伝から
変わりました
—シリーズ— 国保診療所の診療体制
—シリーズ— 伝承員「技」紹介
- P 9
- P 10





イベントをリニューアルし多彩に 西会津ふるさとまつり

第27回 西会津の文化と産業祭 開催

今年度の西会津ふるさとまつりは、出会い・発見・創造をテーマに東日本大震災復興支援イベントとして、10月27日、28日の2日間にわたり、さゆり公園で開催されました。

初日は絶好の秋晴れとなり、穏やかな天候の中、来場者は西会津の食などを堪能しました。2日目は、あいにくの雨模様となりましたが、来場者は新イベントの「健康がいちばん紅葉ウォーク」や「ワンちゃんフェスティバル」など多彩なイベントに参加し西会津の秋を満喫しました。

初日のオープニングセレモニーの開会式では、町ふるさと振興推進委員会委員長の伊藤町長が「福島の復興をけん引するイベントとして西会津町から元気を発信します。町の産品を賞味いただき西会津町を存分に堪能して楽しんでください」とあい

さつし、来場者を歓迎しました。続いて鏡開きが行われ、ふるさとまつりが開幕しました。開会式後には表彰式が行われ、農業まつり部門、健康福祉まつり部門、商工まつり部門の大賞受賞者に伊藤町長から賞状と記念品が贈られました。

その後のアトラクションでは、

町内保育所の年長組幼児が、こゆりちゃん音頭を、西会津中特設合唱部と会津若松市立第五中吹奏楽部がそれぞれ合唱と合奏を披露しました。初日は町内愛好者による民俗芸能と民謡の集いなどが行われました。2日目には、健康がいちばん紅葉ウォークが開催され、参加者は5kmと7kmのコースを散策しました。ウォークには宮城県山元町の皆さんも参加しました。また、ワンちゃんフェスティバルではミニ運動会やフアッションショーが繰り広げられたほか、恒例の桐ゲタ投げ全国大会も行われました。今回は2日間、新しくパーベキューハウスこゆりちゃんが開催され、来場者は県産牛やミネラル野菜の味覚を楽しみました。

受賞おめでとう

ございます

受賞者名簿から①は大賞、②は金賞、③は銀賞「敬称略」

【農業まつり部門】

▼穀類①石川靖典(安座)②山口和也(高目)、目黒信一(長桜)③片岡建三(塩)、三瓶幸一(出戸)、三留栄一(青坂)

▼野菜類①高橋榮子(上野尻)

②長谷川博巳(松尾)、長谷川美枝子(松尾) ③長谷川越子(松尾)、山形貞子(徳沢)、佐藤政仁(高目)

▼果実類②長谷川博巳(松尾)

▼菌茸類①五堂陽平(西林東)

②三留満(青坂)

▼農林産物加工品①齋藤えりか(芝草)②三留真理(縄沢)③鈴木二三子(萱木)、荒海百恵(小綱木)

▼農林業振興①農事組合法人会津きのこ工房(西林)、JA

会津いいで青年部西会津支部(西林)、新田孝子(程窪)

【健康福祉まつり部門】

●高齢者作品展

▼民・工芸品①佐藤ミエ子(1町内)②伊藤房男(屋敷)③小原桂子(宝川)

▼手芸品①岡野浪子(下松)②新田房子(芝草)③三留ツギ子(6町内)



①健康がいちばん紅葉ウォーク／②ワンちゃんミニ運動会／③町産ミネラル米のもちつき実演／④桐ゲタ投げ全国大会／⑤露店を巡る多くの来場者／⑥ミュージックFESTA会場の模様／⑦民俗芸能と民謡の集い・穂波会／⑧会津大学学生と桐々舞のよさこい踊り／⑨会津若松市立第五中吹奏楽部による合奏披露／⑩沖縄県宮古島市とのイメージキャラクターの交換／⑪10月中旬から11月まで国際芸術村に滞在したスー・ファドゥさんの子どもたちを対象にしたコミュニケーションアート創作活動の模様



【商工まつり部門】
▼観光写真①仲川文夫(平明)
②薄定雄(井谷)③伊藤建二(5町内)

●障がい者作品展
①デイサービスセンターⅡ②
にこにこ相談所③機能訓練生、
広木トシノ(さゆりの園)

▼書絵・句①渡部孝子(7町内)②渡部シズエ(ミニデイサービス)③和久井正己(10町内)
▼陶芸①河瀬能婦子(菅本)②阿部康夫(呼賀)③向勇二(8町内)



功績をたたえ

自治功労者表彰式・自治区長大会

・納税貯蓄組合長大会

本年度の自治功労者表彰式・自治区長大会・納税貯蓄組合長大会は11月16日、町公民館で行われ、長年にわたり町政の向上発展に貢献された方々に表彰状や感謝状が贈られました。

表彰式では、伊藤町長が「受賞者の皆さんの長年にわたる功績に感謝申し上げます。引き続き、真に豊かさを実感できる町づくりの全力を傾注していきます」と式辞を述べ、次に武藤町議会議員があいさつした後、伊藤町長が出席した11人の受賞者に表彰状などを手渡しました。続いて県会津地方振興局の石井局長、小松山県議会議員、遠藤県議会議員が祝辞を述べました。

最後に受賞者を代表し、前町消防団長で消防団員を約45年務め、町政の向上発展に尽くした江川貞一さんが「今後とも一町民として町政の発展と無火災のために協力していきたい」と謝辞を述べました。本年度は、特別功労表彰が4人に、功労表彰が1人に、また、長年にわたり自治区長を務めた永年勤続者への感謝状が4人に、納税貯蓄組合長の永年勤続者への感謝状が6人に贈られました。

平成24年度 受賞者(敬称略)

自治功労者表彰

◆特別功労表彰

前西会津町議会議員

故 長谷川 徳喜(松尾)

前西会津町消防団長

江川 貞一(牧)

前西会津町消防団副団長

清野 佐一(下小島)

元西会津町消防団庶務本部長

鈴木 洋(軽沢)

◆功労表彰

前西会津町消防団第5分団長

長谷川 昭英(梨平)

感謝状贈呈

◆自治区長永年勤続者

【10年勤続】

芹 沼 武藤 新一

西 林 東 土岐 充

山 口 高橋 秀雄

黒 沢 波部 啓

◆納税貯蓄組合長永年勤続者

【20年勤続】

西 林 薄 上 陽子

【15年勤続】

上野 尻 5の3 土田 英人

下野 尻 第6 新田 由美子

【10年勤続】

芹 沼 武藤 新一

さゆりが丘 三瓶 静雄

黒沢 第2 波部 謙一郎

特別功労表彰

前 西会津町消防団長 江川 貞一さん

私が消防団に入団するころは、青年会、そして消防団へといった流れが一般的で、入団しない者は一人前の男子として認められないような時代でした。私は父が退団後、昭和42年に入団しました。

当時は現在のような高性能の消防ポンプが無く、なかなかエンジンを始動できず、早く覚えるよう先輩方にしかられたことが思い出に残っています。

願みると、平成6年8月に芹沼中野峠で発生した山林火災では、当時、佐藤義夫団長の指揮のもと午後2時ごろ全分団が出動し、ポンプ車、小型ポンプ15台以上で中継し、猛烈な熱さの中、夜まで消火作業にあたったこと、また、平成21年の民報金ばれん受賞や、平成22年には県消防協会長表彰旗を受賞したことなどが次々と思ひ出されます。このたび、栄えある表彰に浴し感謝を申し上げます。この賞は諸先輩方、同僚、町民の皆さんのご指導、ご支援そして家族の協力があって受賞できたものであり、私の一生の宝にしていきたいと思ひます。



特別功労表彰

前 西会津町消防団副団長

清野 佐一さん

昭和44年12月、消防団に入団し、その後、昭和47年のポンプ操法大会では小型ポンプの部の2番員として出場し、町の予選会、そして喜多方支部大会において優勝し、会津地方大会では準優勝という結果を残すことができました。

また、団本部の訓練本部長という立場で平成19年に西会津町を会場に会津地方総合防災訓練を開催できたこと、さらに平成21年には福島民報社の「金ばれん受賞」という場面に立ち会えたことは大変名誉で光栄なことでした。入団以来42年余りの間、消防団員として無事務めることができました。これもひとえに町当局をはじめ、消防団、関係団体の皆さん、そして多くの町民の皆さんからご指導、ご協力をいただいたおかげであり心から感謝と御礼を申し上げます。

今後は一町民として防災や減災、安全・安心のまちづくりのために今までの経験を生かし、微力ではありますが、お手伝いができればと思っています。



特別功労表彰

元 西会津町消防団庶務本部長

鈴木 洋さん

私が学校を卒業したころ、東松峠在住の消防団軽沢班の班長が会津坂下町に移住しました。そのとき班長から「消防団員になって自分の代わりに村を守ってほしい」と言われ、また、幼いころから、ずっと私を見守ってくれた村の人たちを今度は自分が守る番だと思い入団しました。

よみがえる思い出は、下野尻の大火であり、当時は広域消防署も無く、住宅はかやぶき屋根であったため強風による飛び火で、どんどん被害が広がっていきました。多くの消防団員で消火にあたりましたが火の勢いは衰えず、あのときは人間の無力さを痛感させられました。同時に火事を絶対に出してはならないという予消防防の大切さを強く感じました。

このたび、このような表彰を受賞できると思ってもいませんでしたので大変光栄に思っています。先輩の皆さん、地域の皆さんのご支援とご指導のおかげであり感謝いたします。これからも一層精進し地域社会に報いたいと思ひます。



▲ 講演する渡部定衛さん

表彰式終了後の第2部では、本年度の福島県農業賞を受賞した菅本の渡部定衛さんが「魅力ある農業への挑戦」を演題に講演しました。

渡部さんは、昭和44年に就農して以来、葉タバコやインゲンなどの生産を経て、町のリースハウスを活用したキウウリの大規模栽培や、トウモロコシの地元スーパーとの契約販売、また冬季のウド栽培など年間を通じた農業を実践し、さらに、妻や娘と家族経営協定を結び農業を営んでいるほか、エコファーマーとしても健康な土づくりや、減農薬・減化学肥料など環境に配慮した安全・安心な農作物生産に努めています。

渡部さんは、これまでの取り組みをはじめ、農業の魅力、「作る農業から、見せる農業へ」といった今後の農業の展望、自身の抱負などについて講演しました。



D V

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、家庭内・男女間で行われる身体的・精神的・性的暴力

【通報先】

健康福祉課 ☎ 45-2214
喜多方警察署 ☎ 0241-22-5111
DV相談ナビ ☎ 0570-0-55210

たとえ夫婦や恋人であっても、どんな理由があっても、暴力を振るうことは許されません。
DVは重大な犯罪です。独りで我慢しないで、まずは身近な機関にご相談ください。
女性の約10人に1人が「配偶者からの暴力」に悩み苦しんでいます。

気付くのは、あなたと地域の心の目

知識で

全な
らしを!

りで、こんな
いませんか?

10月1日から「障害者虐待防止法」が施行されました。すでに施行されている児童虐待防止法・高齢者虐待防止法・配偶者暴力防止法(DV防止法)とあわせ、社会的弱者の人権を守るための法律が整いました。

これらの法律は、「虐待されている人」だけではなく、「虐待している人」にも目を向け、両者を支援する目的で作られています。

虐待は介護の疲れや、やむにやまれぬ事情のもと起きている場合があります。無意識のうちに起きている場合もあります。

虐待についての正しい知識を持ち、自らの対応を見直すこと、また、見守り、気付き、助け合いにより、地域から孤立する家庭を無くすことが虐待予防につながります。誰もが安心して安全に暮らせる地域づくりのためには、一人一人の温かい声掛けや気付きが大切です。



児童

【通報先】

健康福祉課 ☎ 45-2214
児童相談所・全国共通ダイヤル
☎ 0570-064-000

何をやっても赤ちゃんが泣きやまないと、どうしていいのかわからずに、いらいらしてしまう。

子育ての経験があれば誰でも一度はこんな経験をしたことがあるのではないのでしょうか。

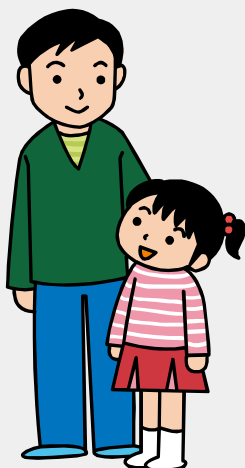
核家族化が進み子育ての悩みを相談することができず、独りで悩みを抱えている母親、家庭でどんなふうにも育児に参加していいのかわかっている父親が少なくないようです。

このような状況で無意識のうちに虐待が起きていることがあります。

テレビや新聞で報道されている重大な事件のほかにも「児童虐待」と思われる事例が数多くあり、深刻な社会問題になっています。

育児や家庭での役割に悩んだら、いつでもご相談ください!!

相談先：健康福祉課・健康支援係 ☎ 45-4532





高齢者

【連絡・相談先】

健康福祉課

☎ 45-2214

にしあいづ

地域包括支援センター

☎ 45-3327

あなたが小さかったころ、うまく歩けなくても、上手に食べられなくても、おねしょをしても、ずっと優しく見守ってくれた「お父さん」「お母さん」。今度は、あなたが「お父さん」「お母さん」を見守ってあげる番になりました。

うまくできないことや、理解できないこと、忘れてしまうことなどを責めたり、怒ったりしていませんか。もう一度、接し方を振り返ってみましょう。

●身体的虐待

安全のためと思って、身体をひもやベルトで固定した場合も虐待にあたります。本人のペースを理解せず、介護者のペースで体を動かしたり、連れ出したりすることも虐待になります。

もちろん、殴る、ける、つねる、閉じ込めることなどは虐待です。

●性的虐待

しつけと称して裸にしたり、恥ずかしい思いをさせたりすることは虐待にあたります。キスや性交の強要、性器への接触なども虐待です。

●心理的虐待

怒鳴る、ののしる、悪口を言う、子ども扱いする、無視することなどが虐待にあたります。

不意の一言が本人を傷つけている場合もあります。

**虐待？
これは
虐待です**

●経済的虐待

本人の同意なしに、財産や年金などを使うことは虐待にあたります。

本人が必要な金銭を渡さないのも虐待です。

●ネグレクト(介護等の放棄)

十分な食事を提供しない、不潔な住環境で生活させる、必要な医療・福祉・介護サービスを受けさせないことなどは虐待にあたります。

●セルフネグレクト (自己による放任)

自らの生活や健康状態を損なっていることをセルフネグレクトといいます。声掛けが必要です。

正しい
**安心・安
暮**

あなたの周
ことが起きて



障がい者

【通報先】

健康福祉課

☎ 45-2214

障がいのある方は、虐待を受けていることを認識しにくく、また、それを他人に訴えることができない場合が多い傾向にあります。

障害者虐待防止法では、虐待に気付いたとき、疑わしいと思ったときの通報が義務付けられました。

「見て見ぬふり」は、虐待を許しているのと同じです。みんなで協力し、虐待の無い安心して暮らせる社会にしましょう。



通報や届出をした人の 情報は守られます!

虐待の通報や届出、相談をされた方の情報は慎重に取り扱われます。

通報者が会社や施設の職員の場合、通報を理由に解雇されることは禁じられています。匿名の場合でも、通報内容は受け付けられますので、安心して通報ください。

西会津町チームメンバー

1区	大田 聖羅 (西会津中 2年)
2区	小島 匠 (喜多方桐桜高 3年)
3区	佐藤 茂哉 (西会津中 2年)
4区	田崎 雄也 (㈱ 佐藤 燃料)
5区	山口 圭太 (西会津中 3年)
6区	岩原 隼 (西会津町役場)
7区	上野 莉緒 (西会津中 2年)
8区	伊藤 峻 (西会津中 2年)
9区	矢部穂乃香 (西会津中 3年)
10区	薄上 南平 (秋田県立大 2年)
11区	若木 美奈 (西会津中 2年)
12区	齋藤 勇一 (㈱ 野沢 商事)
13区	江川 正樹 (にしあいづ福祉会)
14区	市橋 卓磨 (西会津中 3年)
15区	秦 優希子 (西会津中 3年)
16区	雅楽川隼人 (㈱ アズール)



ふくしま駅伝

第24回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会



スタート地点の白河市総合運動公園にて

11月18日(日)に白河市から福島市まで16区間、96.5kmのコースで行われた第24回ふくしま駅伝において西会津町チームは6時間18分31秒の成績で総合48位(町の部27位)と2年連続だった最下位を脱出しました。



チーム一丸となって走りつないだ96.5km!

【写真】

- ① 9区矢部穂乃香選手(右)と10区薄上南平選手(左)
- ② 13区江川正樹選手(右)
- ③ 16区雅楽川隼人選手

中学生を中心としたチームではありましたが練習した成果が発揮でき、最下位を脱出できて良かったです。練習ではメンバーがなかなか集まらない期間もありましたが、もっと練習ができていればもう少し上位を狙えたと思います。多くの町民の皆さんが応援してくれたことも選手にとって大変力になったと思います。ありがとうございました。

大会を振り返って

主将 雅楽川隼人さん

西会津町チームは、過去2大会連続で総合順位が最下位と大変悔しい思いをしてきたことから、昨年の大会直後から選手たちは、一つでも上位を目指して練習に励んできました。その成果があつて各地で開催されているマラソン大会では、優勝や上位入賞など着実に結果が現れてきていました。大会では、薄上南平選手の区間36位をはじめ中高生が昨年の大会より健闘し目標であった最下位脱出を果たしました。選手たちは、来年はさらに上位を目指したいと早くも来年に向けた目標を立てていました。



変わりました 国保診療所の診療体制

とだ こうたろう
戸田 耕太郎 医師
[専門診療科]
外科・消化器内科



昭和 27 年岡山県生まれ。前任は岡山県笠岡市立市民病院で副院長を歴任。東日本大震災で被災した福島県を支援したいという思いから来町し、11月1日より西会津診療所ならびに群岡診療所の所長代理として勤務しています。

群岡診療所長の小林貞夫医師が10月31日で退任し、11月1日に戸田耕太郎医師が着任しました。
本号では、変更した各診療所の診療体制と戸田医師について紹介します。

町では、外来患者や在宅患者、特別養護老人ホームなどの施設入所者に対してより良い医療サービスを提供するため、これまで医師の確保をはじめ、診療施設・設備の充実などに努めてきたところです。

11月1日からは新たに戸田医師がスタッフに加わり、坂田医師、岡崎医師、三留医師、戸田医師が協力し合い4名体制で診療を行っています。11月からの診療体制の変更点は次のとおりです。

【西会津診療所】

外科の診療科を新設し、午後の診察

外来診療担当医は下記のとおりです

診療所	診療開始時間	月	火	水	木	金
西会津	午前9時～	坂田	坂田	*	坂田	坂田
		岡崎	*	岡崎	岡崎	岡崎
		*	三留	三留	*	三留
		戸田	戸田	戸田	戸田	*
西会津	午後2時～	三留	戸田	戸田	三留	戸田
	午後3時30分～	坂田	岡崎	坂田	坂田	岡崎
群岡	午前9時～[午後は休診]	三留	岡崎	坂田	三留	戸田
新郷	午後2時～	*	三留	*	*	*
奥川	午後2時～	岡崎	*	*	*	坂田

開始時間を午後2時からとしました。また、午後3時30分からは医師2名体制で診察します。

【群岡診療所】

西会津診療所と同じく外科の診療科を新設しました。外来の診察は、午前のみで午後は休診となります。

【新郷診療所】

出張診療日は週1回で、火曜日となります。

太陽光発電施設を整備しています



西会津診療所の工事の様

町では、再生可能エネルギーを活用した災害に強い自立・分散型エネルギーシステムの導入を推進するため、町の防災拠点となる公共施設に太陽光発電施設を計画的に整備しています。

今年度は、西会津診療所とケーブルテレビ放送センターに太陽光パネルおよび蓄電池を整備する工事を行っています。町民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

【問い合わせ先】

西会津診療所 ☎45-4228
群岡診療所 ☎47-2025

外来診療を担当する医師は、左上の表のとおりです。なお、外来診療担当医は変更になる場合がありますので、ご了承ください。

奥川診療所を受診される方は、西会津診療所に当日の11時まで電話で予約してください。

また、新郷診療所を受診される方は、群岡診療所に当日の11時まで電話で予約してください。

西会津診療所の土曜診療(内科のみ)は第1・第3土曜日です。担当医は交代になります。

町では、町内の貴重な民俗芸能や伝統技術などを保存し、後世に伝えるため、「伝承員制度」を創設した。

シリーズ5回目の今月は、つる細工の佐藤寅男さんに話を伺った。

つる細工に用いられるマタタビは、つる状に成長する落葉低木で、水切れが良く、水分を含んだ材料は、しなやかで手や野菜などの素材を傷つけることが少ない。こうした特長から、ざるなどの炊事用具に用いられている。成熟したマタタビのつるの皮をむき、3〜5等分に割いて綿のような芯を取り、幅や厚みを丁寧にそろえ編む材料にする。

佐藤さんは、籐つる細工教室を2年ほど受講し、編み細工に魅力を感じてマタタビ細工を始めた。榎木平の須藤一さんから指導を受けて技術を習得し、これまで冬場の製作を約10年続けてきた。

「マタタビ細工は、材料の加工に手間がかかり難しい。材料の幅や厚みをきれいにそろえられるかで、ざるなど用具の良しあしが決まる」と佐藤さんは語る。

材料づくりは1日半。それを編んでざるが完成するまでには3日ほどかかる。佐藤さんは、須藤一さんが使っていた道具を参考に、自分でマタタビを等分に割く道具を作った。さらに、手作りのマタタビの皮むきや、幅をそろえるための道具を用いている。取材で伺った日、それらの道具と、実際に材料の加工作業を見せてもらった。

シリーズ

5

伝承員「技」紹介



【写真右】西会津ならではの矢羽根のような形に編んだざるの縁▶



◀【写真左】マタタビを材料に加工するための手作りの道具、下部の4点はマタタビを3〜5本に割く道具



伝統技術・つる細工
さとう 寅男 さん [上野尻]

従来、材料づくりには鉋なたを使っていたが、より効率よく均一な材料に加工するため、のこぎりや、やすりなどを改良した専用の道具を使用している。

編 み方には、あじろ編みや、十字編みなどさまざまな技法がある。用具の用途によってこれを選ぶ。佐藤さんは三島町や喜多方市など、ほかの地域の編み方を見て回り、用途にさらになじむ用具製作に挑戦している。

「西会津の場合、縁の編み上がりが矢羽根のような形になる。ほかの地域では少ない形で西会津ならではのもの。これにより縁がしっかりと固定され強度も増す。編み方はさまざまで奥深い」と佐藤さんはその魅力を強調した。

ざる を一つ編むのに1〜2mほどのマタタビが30本程度必要になる。11月初旬から12月初旬にかけてマタタビのつるに身が入り、間もなく今シーズンの製作活動が本格的に始まる。

「残念ながらマタタビの良い材料が少なくなつたと感じる。材料が堅くなるため、毎年、同じ場所から採取できない。このため上野尻の友人にも採取を手伝ってもらっている」と佐藤さんは語る。

佐藤 寅男さんは、町老人クラブ主催のつる細工教室で須藤さんに代わって2年ほど講師を務めた。その後も同教室での講師の支援などを通して町民の皆さんに技術を伝えている。

最後に佐藤さんは「須藤さんの足元にも及ばないが、健康が続く限り、つる細工教室などに携わり若い方に技術を伝えていければ」と抱負を語った。

百歳の長寿を祝う



11月9日、3町内の齋藤米^{よね}さんが満100歳を迎え賀寿贈呈式が行われました。

齋藤さんは大正元年生まれ。会津高等女学校を卒業後、東京で舞台衣装製作に携わり、西会津に戻ってからは40年余りにわたり洋裁の指導を行っていました。長寿の秘訣は、いろいろなことに積極的に取り組むことだそうです。

贈呈式では、県会津保健福祉事務所の飯野保健福祉部長、伊藤町長、町老人クラブ連合会の渡部会長から賀寿と祝い金や記念品が贈られ、親族が見守る中、齋藤さんは100歳を迎えたこの日の心境を色紙にしたためていました。

初めての「わくわくフェスティバル」開催

統合後、初めてとなる西会津小学校の学習発表会「西小わくわくフェスティバル」が11月10日、同校の体育館で開かれました。

フェスティバルでは、合奏や音楽劇、研究発表など各学年による発表のほか、伝統クラブによる「屋敷人形劇」などが披露されました。

子どもたちは、この日のために協力し合い一生懸命練習してきた成果を伸び伸びと発表し、会場を埋め尽くした大勢の保護者は、成長したわが子の姿や、堂々とした発表に大きな拍手を送っていました。



心のこもった手芸作品をいただく

11月13日、上野尻の清野フミさんが手芸作品の寄贈のため町役場を訪れました。

清野さんは、東日本大震災で離散した親族との再会を願い、2枚合わせた貝殻に布を張り縫い合わせた「あわせ貝」の手芸作品を7月中旬ごろから作り始め、大震災発生日の3月11日にちなんで311個製作しました。寄贈にあたり清野さんは「一つ一つ心を込めて製作しました。これまで敬老会などでお世話になったので、活用していただければ」と伊藤町長に作品を手渡しました。(写真:中央が清野さん、左は同行した民生委員の齋藤公子さん)



おいしい芋焼酎の完成を願いながら

J A会津いいで青年部西会津支部と二本松市の酒造会社などが、農業・商業・工業の連携により製造している『芋焼酎』の原料となるサツマイモ(黄金千貫)の収穫が11月6日、西林で行われました。

この取り組みは、J A会津いいで青年部西会津支部の皆さんが、耕作していない農地の利用と新たな製品づくりに向け平成21年に開始したもので、今年度はミネラル野菜普及会の皆さんも栽培に参加しました。

4年目を迎えた今年は夏季に高温が続いたため収穫量の減少が心配されましたが、予想以上の収穫となり、皆さんは、おいしい焼酎の完成を願いながら作業にあたりました。



みんなので「食育」

「食育推進計画」について

食は、私たちが生きていく上で欠かせない大変重要なものです。

町では、町民の皆さんが健全な食生活を実践することによって心身の健康を増進し、生涯にわたり生き生きと暮らすことができるよう、食育推進委員会を設置して作業を進め、本年3月に「西会津町食育推進計画」を策定しました。今後は、この計画に基づいて食育を推進していきます。皆さんも毎日の食について考えてみましょう。

『しょくいく食育』とは？

食育基本法の中で、「食育」とは次のように位置付けられています。

- ①生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきもの。
- ②さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実施することができる人間を育てること。

計画の基本理念

『食がつなぐ 健やかな心と体』

※「つなぐ」には、地域をつなぐ、世代をつなぐ、長く続く、絶えないようにするという意味があります。



計画では、「食がつなぐ 健やかな心と体」を基本理念とし、家庭・学校・地域が一体となって食育を推進することとしています。また、乳・幼児期、学童・思春期、成人・高齢期の世代ごとに目標を掲げるとともに、すべての世代の食育に係る地産地消についても目標を設定しています。その基本目標は左下のとおりです。

乳・幼児期

「楽しく食べる」



乳・幼児期は生涯にわたる食育の始まりです。町では、赤ちゃん栄養教室を開催し、離乳食の試食をしながら食生活の基礎をはぐくんでいます。

学童・思春期

「食体験から学ぶ」

学童・思春期は心身が発達し食習慣が形成される大事な時期です。学校給食はもとより、食育教室で食に対する感謝や食の知識を伝えています。



成人・高齢期

「望ましい食生活を実践し次世代への食育を担う」



成人・高齢期は健康の保持・増進と生活習慣病予防などが大切です。町では健診会場での試食など食生活改善の普及活動を行っています。

地産地消

「にしあいつ産品を活用し食習俗を受け継ぐ」

地産地消とは、地元で生産されたものを地元で消費することです。安全な地元の食材や伝統ある食文化を生かした食生活の継承などにより、地産地消を拡大していきます。

※食習俗とは、食生活に関する風習のこと

具体的な推進目標

- よくかんで味わって食べよう
よくかむことは、虫歯予防・肥満予防につながります。
- 毎日朝食を取ろう
特に20、30歳代が朝食を取っていません。
現状75%→目標値80%
- 一人ではなく、家族と食べる
「共食」の機会を増やそう
「共食」とは、家族と一緒に食事をするので、望ましい食習慣の実践や、食事の楽しさから精神的な豊かさをもたらすとされています。
- 地元でとれる食材を食べよう
地元で作られる食材は、その地域の気候風土に合った食習俗を形づくり、理にかなっているといえます。また、生産者と消費者の信頼関係から、安心・安全な食材の供給につながります。
- 主食・主菜・副菜をそろえよう
ごはん・パン・麺などの主食、魚・肉・卵などの主菜、野菜・きのこ・海藻などの副菜をそろえ、1日3食バランスのよい食事を取りましょう。



西小わくわくクラブで会津の自然を学習

11月3日に会津若松市の背あぶり山において、「紅葉狩りハイキング」を行い小学生と保護者、地域の安全管理員40名が参加して行われました。当日は曇り空の肌寒い日でしたが、背あぶり山はちょうど紅葉が見ごろで、赤や黄色に染まった林道を森の案内人の説明を受けながら散策しました。

背あぶり山の山頂では、猪苗代湖や会津盆地が一望でき、参加した子どもたちは、会津の自然や歴史について学習していました。



奥川地区生涯学習発表会を開催

奥川分館では、11月11日に第8回奥川地区生涯学習発表会を旧奥川小学校体育館で開催しました。

発表会には、奥川地区住民や出身者で構成する5つの団体や個人が参加し、歌や踊り、昔語りや大正琴など、さまざまな演目で発表がありました。

来場者の皆さんは、なじみのある歌の演奏の際には口ずさむなど、出演者、来場者の皆さんが一体となった発表会になりました。



生涯学習の各教室・発表会から



女性講座で奥川の自然と歴史を学習

女性講座では10月31日に「奥川の魅力を探ろう!!」と題して奥川の歴史と自然探勝を行い大出戸、弥平四郎、弥生、大舟沢地区の歴史と自然について学習会を行いました。

受講生は、講師の矢部征男さんから、かつて「木地師の里」として栄えた徳沢駅から弥平四郎集落までのトロッコ列車や大山神社についての話、また、弥生分校跡地周辺の自然など、普段なかなか訪れる機会が少ない地区の歴史や自然について熱心に学習していました。



陣ヶ峯峠と新撰組について学習

さゆり中学では「戊辰戦争ゆかりの地」と題して、陣ヶ峯峠(小清水～喜多方間)と新撰組について11月7日に事前学習を、14日には現地研修を行いました。

新撰組の会津での行動と各地での戦いをはじめ、今でも残っている陣跡やざんごうについて、資料や写真で事前に学習し、実際に陣ヶ峯峠のざんごうを目にした受講生は、西会津町で新撰組が戦ったことや、いつも通っている場所に陣跡があったことなど144年前の戦いの形跡に深く関心を持って聞いていました。



町民バトンタッチ

さいとう ひでき
斎藤 秀樹さん [芝草]

わたなべ ひかり
渡部 暉さん (11月号から) メッセージ

夢に向かってがんばれ!!

あなたの趣味は？

ファッション

最近感動したことは？

最高の仲間と知り合えたこと

自分を一言で表現するとしたら？

強運

あなたのモットーは？

世の中はセンスが大事

特技は？

スポーツ

熱中していることは？

電気工事士の資格取得の勉強

これからやってみたいことは？

遠くへの一人旅

次の方を紹介してください

K・Sさん (西原)

大事にしている物は？
「バスケットシューズです」
「まだまだ少ないですが、靴を集めています」



町民 ギャラリー

文化祭俳句部門から

むらさきの煙のごとし桐の花
夕暮れに灯りともすや唐辛子
ちぎれ雲入道様の忘れもの
子に孫に伝える景色そばの花
野良仕事休む農婦に柿ふたつ

細野シズエ (滑 沢)
由利いつ子 (下小屋)
小野木麗子 (真ヶ沢)
井上 洋子 (さゆりが丘)
白井 重子 (白 坂)

今月は文化祭俳句部門に出展された作品の中から公民館講座のさゆり
中学で俳句を学んでいる方の作品を紹介します。

「訂正」10月号の矢部弘子さんの俳句は「秋あかね絆たしかめ群れて舞ふ」
でした。お詫びし訂正します。

聞いて！ わたしの夢

ここでは西会津中学校の生徒の皆さんに、自分の想い描いている夢や目標などを話していただいています。

今月は、3年・元野球部部長の貝沼 柊哉さんです。



わたしの夢——

「僕が将来なりたい職業は、保育士です。そう思ったきっかけは、子どもが好きで、家庭の授業や体験学習で保育所を訪れたとき、子どもたちとのふれあいが楽しく思い、また、すぐに泣いたり、笑ったりする子どもたちを見てとても興味を持ったからです。そして、どんなことにも、すぐに対応する先生方がすごいと感じ、保育士になりたいと思いました」

努力していること——

「普段の生活でみんなとのかわりを大切にしています。また、友達や後輩とコミュニケーションをとるとき、その人が傷つかないように、思ったことをすぐに言わず、相手の気持ちを考えて話すようにしています」

最後に未来の自分に一言——

「保育士になるのは大変だと思うし、子どもたちの面倒を見るのも大変だと思いますが、子どもたちが好きという気持ちを忘れずに一生懸命がんばってください」

まちの人口 ～11月1日現在～ (前月比)

人口	7,498人	(-12人)
男	3,613人	(-6人)
女	3,885人	(-6人)
世帯	2,809世帯	(±0世帯)

戸籍の窓口 ～10月受付分～ (敬称略)

お誕生おめでとう

齋藤 湊 <small>みなと</small> くん	直弥・祥子	西林東
長谷川 理央 <small>りお</small> くん	勝善・志穂理	西林東
武藤 枝実 <small>えみ</small> ちゃん	達也・志穂	井谷



ご結婚おめでとう

武藤 圭太	西林東
物江 いづみ	9町内
佐藤 信英	滑沢
伊勢亀 香織	下小島



お悔やみ申し上げます

本間 まゆみ (53)	博 妻	7町内
三留 久七 (75)	久 父	西原
鈴木 守 (87)	浩二 父	とりの園
渡部 ハツノ (94)	敏 母	西林
上野 伍左衛門 (80)	昭平 父	呼賀
武藤 明道 (82)	道廣 父	新町



伊藤てる子さん

地方教育行政功労賞を受賞

平成12年10月から町教育委員会委員として11年4カ月の長きにわたり町の教育振興と発展に貢献された伊藤てる子さん(写真:中央)が地方教育行政功労賞を受賞しました。

伊藤さんは、小中学校の統合をはじめ、学力向上対策、学校支援地域本部事業や食育推進モデル事業の推進など町の教育行政推進に尽力した功績が認められこのたびの受賞となりました。



町議会臨時会 報告

町議会臨時会が11月5日に開かれ、工事請負契約の変更契約の議案3件について審議され、いずれも原案のとおり可決されました。

【可決された議案】

- 西会津小学校敷地造成工事請負契約の変更契約—現地精査の結果から暗きょ工、土留工の追加などによる工事請負額の増額
- 町道野沢柴崎線道路改築工事請負契約の変更契約—法面保護工法の変更などに伴う工事請負額の増額
- 西会津診療所太陽光発電施設等設置工事請負契約の変更契約—自家発電装置の発電容量の変更などによる工事請負額の増額



有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

◆大きさ 1枠当たり縦4.0cm×横8.5cm

◆掲載料 1枠当たり5,000円/月

【問い合わせ先】

企画情報課・広報広聴係 ☎45-4536

西会津中「光桐祭」から

11月4日、光桐祭が「色彩～描け！輝く未来に新たな色を～」をテーマに開催されました。実行委員長の渡部晋さん(3年)の開祭宣言の後、学年・学級ごとに掛け声や総合発表、合唱コンクールなどが行われ、生徒の皆さんは互いに協力し合い練習してきた成果を堂々と発表しました。会場にはPTAの皆さんの協力により食堂や模擬店が設けられたほか、文化部によるお茶会も開かれ、みんなが一つになり光桐祭を成功に導きました。

こゆりちゃん
トピックス



今月の表紙



西会津ふるさとまつりのオープニング・アトラクションで町内保育所の年長組の皆さんは、かわいらしく「こゆりちゃん音頭」を披露し、イベントの開幕に花を添えました。踊り終わった後には、ピンクの法被姿で記念撮影を行いました。